

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』

連載第6回

革マル派に山手線の人質にとられた！

『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題を連載記事で告発した。本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。（JR連合民主化闘争情報号外より抜粋）

<週刊現代2006年8月28日発売号>

松崎明のストライキの恫喝に屈した経営陣は、責任を取れ！

なぜ、松崎はそれほど恐れられ、会社に影響力を行使できるのか。本当に松崎の一声で山手線を止めることができるというのか。

「それが、可能なのです。組織全体を動かさなくても、ゴリゴリの活動家が数人いれば、山手線を止めることは十分可能なんです。極端な話、松崎の“特命”を帯びた活動家が、緊急時に列車から電波を発信し、付近の列車を停止させる防護無線を一回、発報してしまえばいいんです。それだけで山手線は全部止まり、回復するまで最低三分はかかる。仮にそんな活動家が五人、順番に防護無線を発報していけば、その日一日の山手線のダイヤはズタズタになりますよ」（元JR東労組幹部）

昔の「鬼の動労」を髣髴とさせる少数精鋭の革マル派系活動家。これが松崎の最大の武器なのだ。そしてこの最終兵器”をチラつかせ、本恫喝することによって、彼はJR東日本を支配してきたのだ。

「テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実 『妖怪』松崎明 JR東労組元委員長が『ドン』松田昌士 JR東日本前会長を屈服させた『山手線ならいつでも止めてやる』」と題するこの記事は、JR東日本が革マル派に支配されるに至った原点である、JR東日本の経営者として「ドン」と呼ばれた松田昌士氏と、革マル派最高幹部・松崎明氏との歪んだ関係について明らかにしています。

自己保身に明け暮れ、革マル派に屈服する JR東日本の経営陣は、経営者失格だ！

大反響 妖怪松崎明がドン松田昌士を屈服させた
山手線ならいつでも止めてやる



週刊現代